

県教育委員会指定研究協力校「読書指導」公開 ～いちき串木野市立川上小学校～

10月23日(金)、いちき串木野市立川上小学校において、県教育委員会指定研究協力校としての「読書指導」の研究公開が行われました。

川上小学校では、令和元～2年度の2年にわたり、「自ら学びに生かす児童の育成」というテーマのもと研究を推進してくださいました。

当日は、1年生の生活科と6年生の外国語科の授業が公開されました。

どちらの学級でも子供たちが生き生きと学習に取り組み、2年間にわたる研究成果を存分に発揮していました。



【研究授業（6年生）の様子】

県研究協力校（たくましいかごしまっ子）公開 ～日置市立土橋小学校～

11月10日(火)に日置市立土橋小学校にて、令和元・2年度県「たくましいかごしまっ子」育成推進事業推進校研究公開及び日置市「チェスト行けひおきっ子Ⅱ」研究指定校研究公開が行われました。土橋小学校では、教科体育の充実、教科外体育の取組、家庭や地域、幼稚園・中学校と連携を図った取組について研究を進めてきました。

当日は5・6年生の球技（ゴール型：バスケットボール）の授業が公開され、児童が主体的に活動し、他者と協働しながら試行錯誤する様子に研究の成果が表れていました。



授業改善の取組を！

平成30年度から3か年計画で『主体的・対話的で深い学び』の実現による学力向上プログラム事業の一環として、地区内の先生方と管内指導主事でチームを編成し、国語、算数・数学、外国語活動・外国語(英語)の3つの部会で研究を深めてきました。

部会で作成した資料を現在、かごしま学力向上支援Webや鹿児島教育事務所ホームページに掲載しています。各小・中・義務教育学校での学習指導に、ぜひ活用していただきたいと思います。また、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため参加者を絞って実施したオープンサポート教科フォーラムの公開授業を撮影したDVDも、鹿児島教育事務所管内の小・中・義務教育学校へ配布していきたいと考えています。こちらもぜひ校内研修等で、活用していただきたいと思います。

au 4G 15:10 63%

コアティーチャーネットワーク プロジェクト指導案等資料集

令和2年度

小学校国語部会
[PDF 学習指導案等 \(PDF: 253KB\)](#)
[PDF 基本的学習過程 \(PDF: 176KB\)](#)

中学校国語部会
[PDF 学習指導案等 \(PDF: 523KB\)](#)
[PDF 基本的学習過程 \(PDF: 154KB\)](#)
[PDF 例示の種類と効果 \(PDF: 278KB\)](#)

小学校算数部会
[PDF 学習指導案等 \(PDF: 781KB\)](#)

中学校数学部会
[PDF 学習指導案等 \(PDF: 476KB\)](#)
[PDF 基本的学習過程 \(PDF: 427KB\)](#)

小学校外国語活動部会
[PDF 学習指導案等 \(PDF: 375KB\)](#)

【鹿児島教育事務所HP】

問題行動・不登校等調査結果

令和元年度の調査結果が公表されました。

いじめの認知件数については、本県では34.7%増加しており、積極的にいじめを認知した学校が増えたことが、増加の背景にあると考えられます。一方で、いじめを認知していない学校にあっては、いじめの認知件数が0件であったことを、児童生徒や保護者向けに公表し、検証を仰ぐことで、認知漏れがないかを確認できます。

不登校数は、本県では小学校で39人、中学校で15人の増加となっています。新たな不登校児童生徒を生まない取組が重要です。全ての児童生徒が、学校生活に満足感・成就感をもつことができるように、「居場所づくり」「絆づくり」に取り組んでいきましょう。

服務規律の厳正確保について

《ハラスメント防止の徹底を！！》

令和2年12月時点で、セクシュアル・ハラスメントに関する懲戒処分事案が県内で3件発生しています。ハラスメントは、相手に不快感や精神的・身体的な苦痛を与え尊厳を傷つけるものです。これまでに性的な内容の発言や業務上必要な範囲を超えた言動等をしたことはありませんか。言動の受け止め方は世代や個人によって異なる場合があるということを意識し、適切なコミュニケーションをとる必要があります。

教育に携わる者として、互いの人格を尊重し、決してハラスメントを行わないよう努めましょう。

また、ハラスメントを受けていると感じている人は決して一人で悩まず、同僚や上司、市村教育委員会や県教育委員会の相談窓口等へ相談しましょう。ハラスメントは我慢していても解決しません。

中学校武道事業への地域指導者派遣に係る地域連携実践校に関する学校訪問

12月4日（金）に、日置市立土橋中学校において、中学校武道授業への地域指導者派遣に係る地域連携実践校に関する学校訪問を行いました。

土橋中学校では、地域に在住の剣道専門の方による指導が行われており、生徒の武道（剣道）に対する興味・関心や意欲の向上に繋がり、授業に向かう意識が高まりました。また、授業の様子から地域の方に対して尊敬の念をもち、意欲的に取り組む姿が見られました。

地域の指導者の協力を得て、保健体育担当教員と連携した授業を実践することで、学習方法や指導のポイント、武道に対する心構えなど、より専門的な学習の機会を得ることができました。



地区生涯学習推進大会

11月28日（土）、日置市伊集院文化会館で開催され、約500人の参加がありました。今年は座席間隔、検温、手指消毒、マスク着用などコロナウイルス感染症予防対策を講じて実施しました。田畑誠一会長が開会のあいさつを、宮路高光日置市長が祝辞を述べられ、その後の表彰式では、地区・市の社会教育等に尽力された個人・団体の表彰と全国・九州・県において受賞された方々の表彰伝達が行われました。

引き続いての2市の特色ある生涯学習の具体的な取組についての紹介や大正琴などの講座生による日頃の学習成果の発表に、参加者は真剣に聞き入り、また会場が大いに盛り上がる場面もありました。

最後に、「私たちが描く！未来の生き方」の演題で、社会学者で小説家の古市憲寿氏が講演をされました。

「未来の生き方」について多角的な視点や示唆をいただき、充実した講演となりました。



自主講座「3B体操」の発表の様子

本地区の地域学校協働活動

「地域学校協働活動」とは、より多くの地域住民や団体等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支え、学校を核とした地域づくりを目指し、地域と学校が相互に連携・協働して行う様々な活動です。

管内のいちき串木野市と日置市では、全ての小中学校と地域に学校運営協議会と地域学校協働本部を設置するとともに、地域と学校をつなぐコーディネーターとして推進員を配置し、活動に取り組み始めています。

地域学校協働活動に取り組むことで、地域の素材を生かした学びや地域住民等とのふれあい活動等をおして、子供たちに郷土愛やコミュニケーション能力が培われることが期待できます。

また、地域住民が子供たちの学びや成長を支える活動をおして、住民相互の絆が強くなり、地域の活性化も期待できます。

コロナ禍で実際の取組が困難な状況ですが、各地域、学校には、この期間を活動の準備期間として捉えて、今できることに取り組んでほしいと思います。

南日本10キロ通信競走日置地区大会 日置地区長距離走大会

12月4日（金）、吹上浜運動公園陸上競技場周辺コースで第61回南日本10キロロードレース日置地区大会、日置地区長距離走大会が行われ、小学生の部から一般の部まで、健脚を競いました。

1・2月に開催される第34回地区対抗女子駅伝大会、第68回県下一周市郡対抗駅伝競走大会において、日置地区の代表選手の健闘を祈念します。

地区子ども会育成連絡協議会個人・団体表彰

- 《団体》 妙円寺7区子ども会（日置市伊集院地域）
立野子ども会育成会（日置市伊集院地域）
和田地区子ども会（日置市吹上地域）
大原地区子ども会（いちき串木野市）
川南地区子ども会（いちき串木野市）
中之島子ども会（十島村）

《個人》 該当なし

涼風

Someday This Pain Will Be Useful To You. (この痛みはいつか皆さんの財産となるでしょう)

指導課長 立部 剛

昨年二月、新型コロナウイルス感染が拡大するイタリア・ミラノで、高校の休校を告げるために、学校のHP上に生徒向けの手紙を掲載したドメニコ・スキラーチエ校長先生。その手紙が話題になり、校長先生は日本の若者にもメッセージを送りましたが、文題はその中の一節です。

この校長先生の手紙を通して、私は二つのことを感じました

一つは、子供たちに、今なすべきこととやるべき姿をきちんとメッセージとして伝える大切さ。先の手紙では、「社会生活や人間関係を『汚染するもの』こそが、新型コロナウイルスがもたらす最大の脅威である」とし、過去のペスト流行の歴史を踏まえながら、冷静な判断や行動が求められること、人間らしい思いやりが最も大切であること、そして終息に向けて熱く語られています。今の状況が子供たちに与える影響が心配されているからこそ語らねばならないし、教師の言葉は重みをもって、子供たちの心に深く届くことだと思います。

私を感じたもう一つは、教育の役割の大きさであること。これまで当たり前にあった学校の日常が揺らぐ今だからこそ、学校の意味を改めて考える機会にする必要がありそうです。今年度、管内の学校でも、多くの苦渋の決断や様々な方法の模索がなされたと思いますが、そもそもその意味や目的を考へることが最善の選択のためのヒントになったのでしょうか。こうした経験はコロナ終息後に財産として残るものと考えます。

新しい年になってもコロナ禍の終息は未だ見えない状況ですが、「明けなき夜はない」と信じて、頑張っていきたいと思います。